
障害福祉サービス事業所のICT化

～業務改善につなげるための活用法と注意点～

自己紹介

北野 喬士(きたの たかし)

(株)インサイト取締役 パートナー

(N)Re-Live理事長



学生の頃から障害者支援ボランティアとして業界に携わり、障害福祉業界で25年の経験を持つ。株式会社と・らいず(大阪市住之江区)では代表取締役として、移動支援・発達障がい・不登校支援事業を経営。

’09年より株式会社インサイトのコンサルタントとして全国で障害福祉事業所向けの研修・コンサルティングを実施。

‘09年と・らいず、‘14年株式会社YEVISを後身に譲り、地元でNPO法人Re-Live(大阪府岬町)を設立、多機能(A型+B型)で民泊清掃や病院清掃、相談支援事業を実施。

平成31年度 厚生労働省障害者総合福祉推進事業『障害福祉サービス事業所における生産性向上に関する調査研究』の事務局を務め、『障害福祉サービス事業所のICTを活用した業務改善ガイドライン』の作成に携わる。

令和元年度障害者総合福祉推進事業 『障害福祉サービス事業所のICTを活用した業務改善ガイドライン』

平成 31年度 厚生労働省障害者総合福祉推進事業
障害福祉サービス事業所における
生産性向上に関する調査研究

障害福祉サービス事業所の
**ICTを活用した
業務改善ガイドライン**

初級編

03 情報をまとめよう！

▶ 情報共有：グループウェア

導入事例 ▶ 特定非営利活動法人 SMSC（茨城県稲敷市）

グループウェアを導入し、全職員のスケジュールを一元化して、スケジュールや申し送りを管理。

業務の質の向上

- セキュリティレベルは高くなり、かつ情報伝達が速くなり、伝え漏れが減った。情報を手軽にアップできるようになり、伝え忘れがなくなり共有と連携のミスが減った。毎々のスケジュールのバッティングも減った。

量的な効率化

- 投稿量が増え（スレッド数 15 件/月→100 件/日へ）、コミュニケーション量が増えた。

課題

- 情報のやりとりを個人の SNS を通じて実施していたが、情報管理の観点から問題と認識していた。
- スケジュールをホワイトボードの予定表を使って管理していた。

解決の仕方

- ①法人でグループウェアを導入し、スケジュール管理を一元化し、全員の情報を全員が見ることができるようにした。
- ②社内の申請書・日報等のフォーマットを統一し、グループウェア上で管理するようになった。
- ③申し送り帳、あらゆる情報共有系は SNS 上で管理するようになった。

BEFORE

↓

AFTER

16 障害福祉サービス事業所のICTを活用した業務改善ガイドライン

本日の流れ

1. 基本編

- ICT化とは？
- なぜ福祉現場においてICT化が求められているのか？
- ICT化の進め方

2. 事例編

- ICTを活用業務改善手法の紹介
 - 情報共有
 - 会議
 - 利用者情報管理
 - 記録

3. ICT導入補助金を活用した実績報告書分析結果

4. まとめ

1. 基本編

①ICT化とは？

②なぜICTが求められているのか？

③ICT化の進め方

ICTとは？

IT (Information Technology)

:「情報技術」。ハードウェア、ソフトウェア等、コンピューター関連の技術そのもの。

ICT (Information and Communication Technology)

:「情報通信技術」の略。通信技術を活用したコンピューター技術の活用方法。

ちなみに...

DX (Digital Transformation)

:「デジタル変革」。「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。デジタル技術やデータを駆使して作業の一部にとどまらず社会や暮らし全体がより便利になるよう大胆に変革していく取り組み。

ICT化とは？

ICT (Information and Communication Technology)

:「情報通信技術」の略。IT機器を活用した**情報通信**技術。

ICT化

:情報通信技術を活用して**コミュニケーション**をより円滑に**促進**する事。

ICT化とは？

コミュニケーションをより円滑に促進するのは

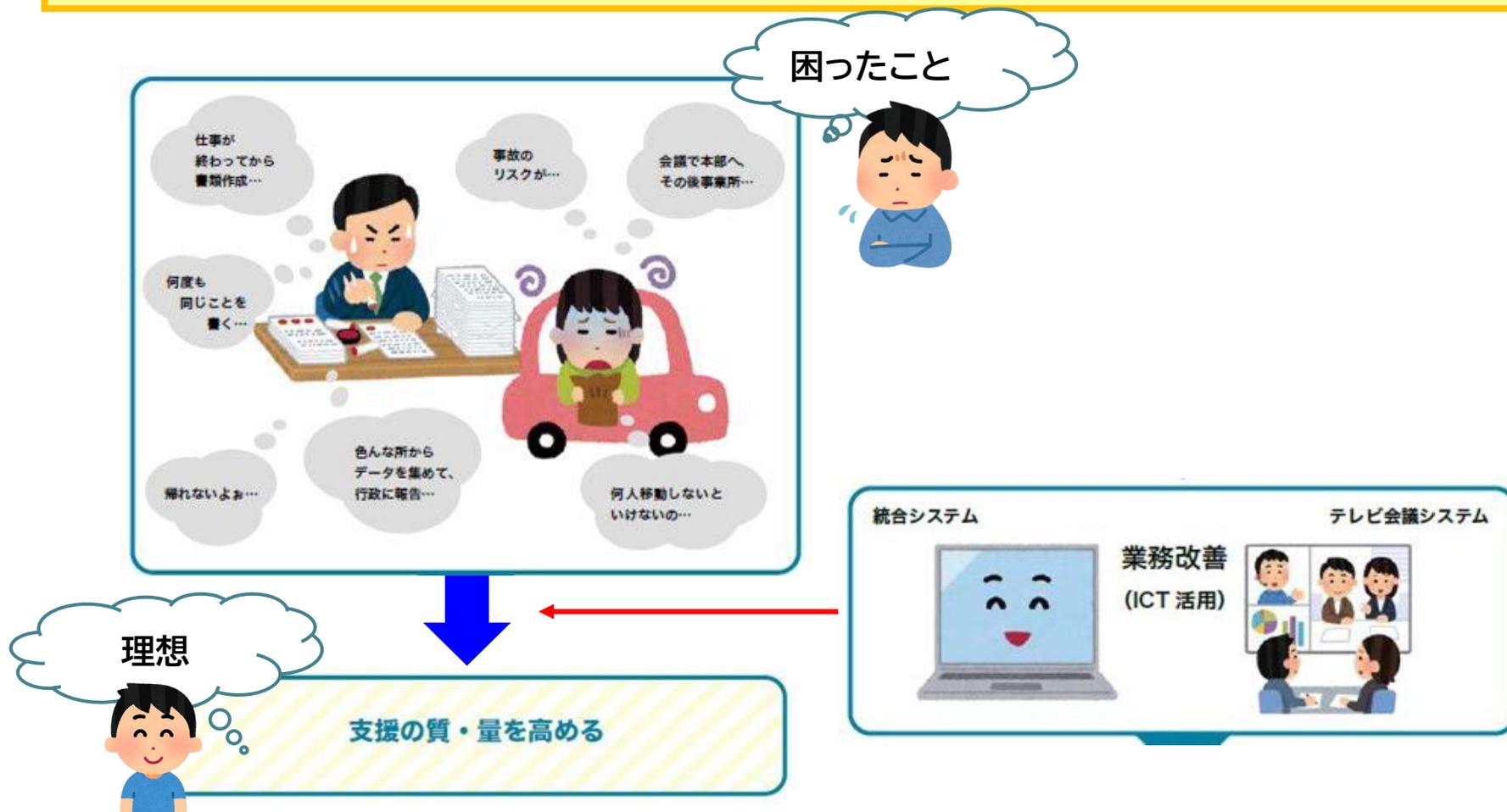
『より質の高い支援を実施する為』

その為に必要な事は

『業務改善』

ICT化とは？

- ICT化の本質は「業務改善・見直し」



ICT化とは？

● 例えば…

- 施設が離れていて移動が大変。
- 役員会議の調整が大変。

困ったこと



テレビ会議

or

調整さん

or

会議をやめる

理想



必要なタイミング・時間に、会議をしたい。



なぜICTが求められているのか

厚生労働省のデータヘルス改革の全体像

- ICT等を活用した「個々人に最適な健康管理・診療・ケア」の提供や、健康・医療・介護のビッグデータを連結した「保健医療データプラットフォーム」の2020年度本格稼働等により、**国民が、世界最高水準の保健医療サービスを、効率的に受けられる環境を整備。**

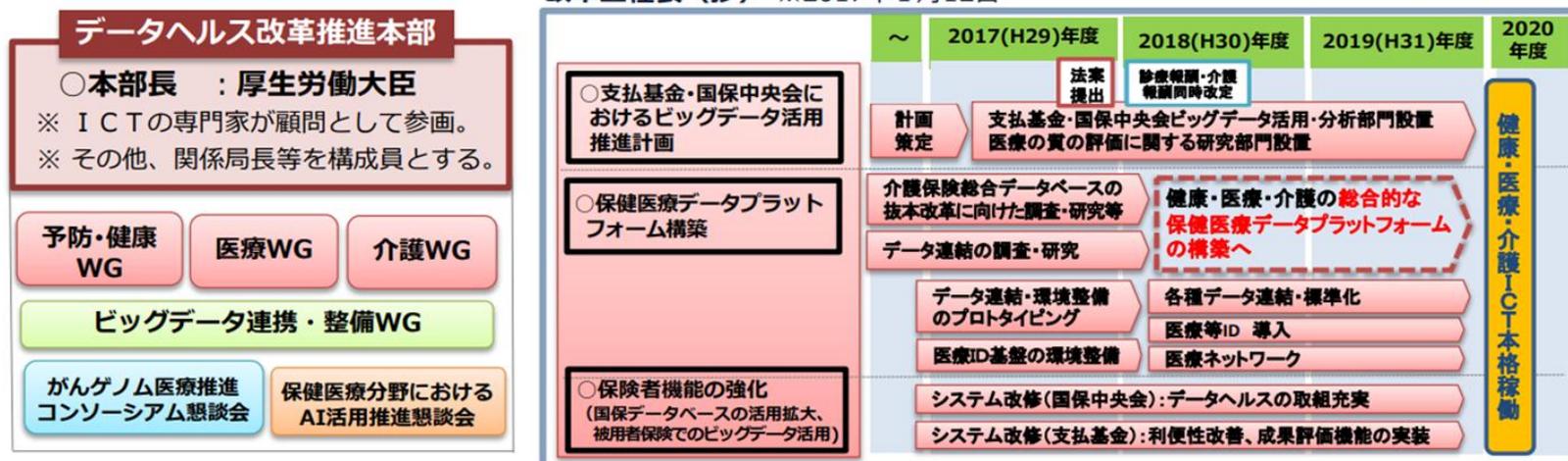
データヘルス改革の方向性

- ゲノム医療・AI等の最先端技術やビッグデータの活用、ICTインフラの整備などを戦略的、一体的に展開。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> I 最先端技術の活用 II ビッグデータの活用 III ICTインフラの整備 | <p>がんゲノム医療の実現、保健医療分野のAIの開発加速化、遠隔診療・介護ロボット</p> <p>ビッグデータを活用した保険者機能の強化、科学的介護の実現</p> <p>保健医療分野のデータ利活用基盤の構築</p> |
|--|--|

- 本年1月、省内に「データヘルス改革推進本部」を立ち上げ。「改革工程表」に沿って、具体化に向け、加速。

改革工程表（抄） ※2017年1月12日

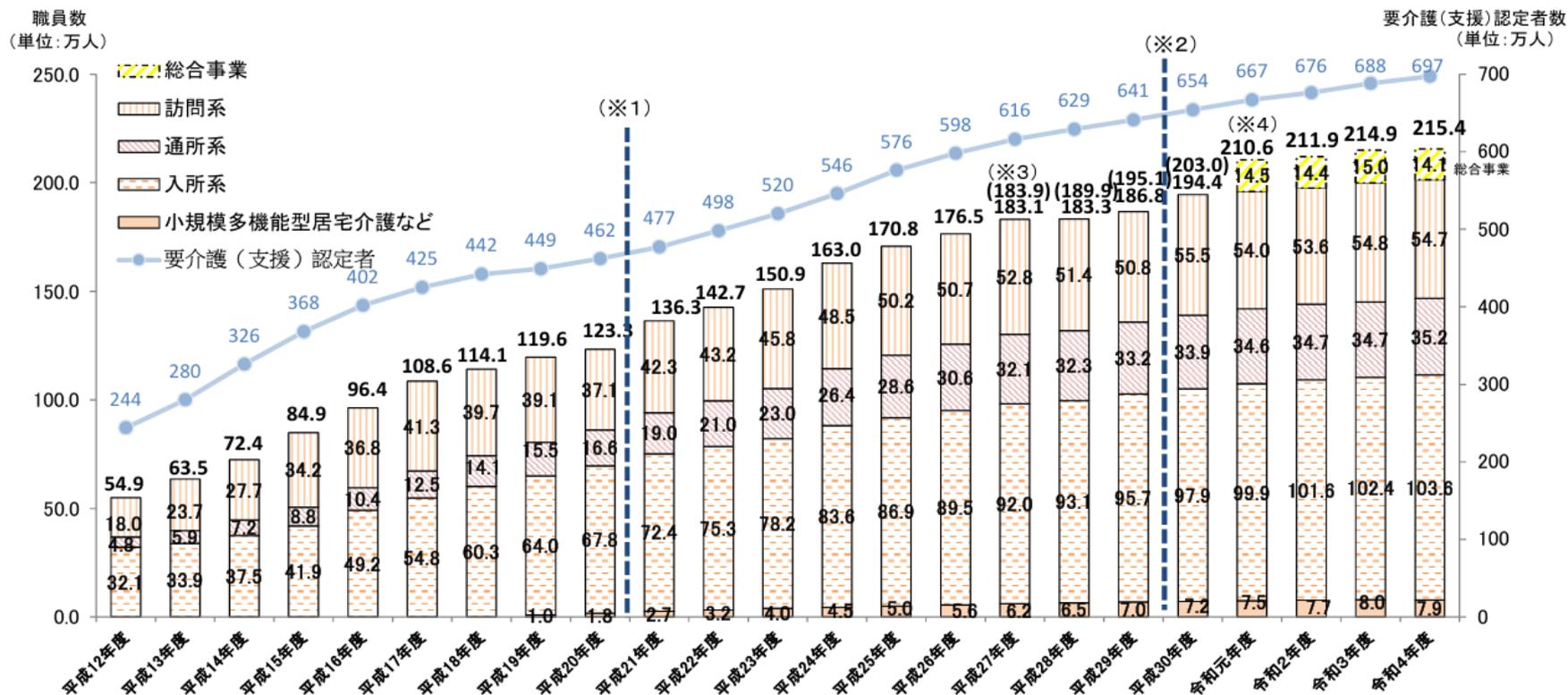


なぜICTが求められているのか

介護職員数の推移

別紙2

○ 本表における介護職員数は、介護保険給付の対象となる介護サービス事業所、介護保険施設に従事する職員数。



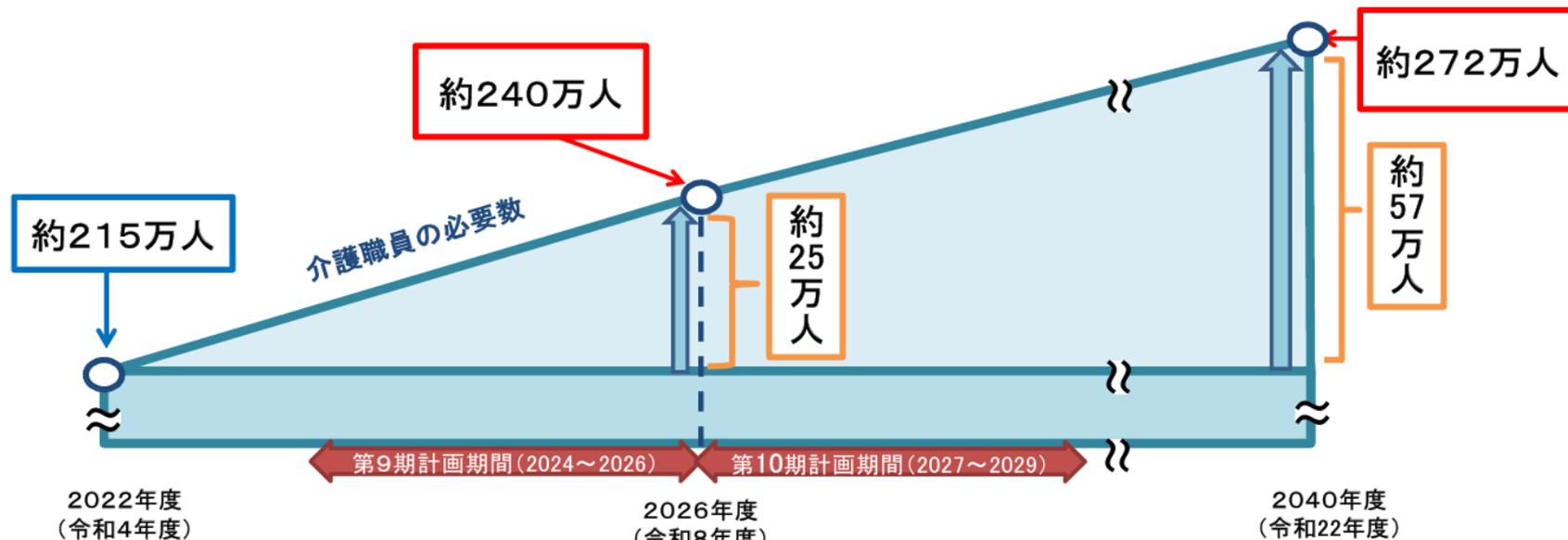
厚生労働省 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について (令和6年7月12日)

なぜICTが求められているのか

第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

別紙1

- 第9期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を集計すると、
 - ・ 2026年度には約240万人（+約25万人（6.3万人/年））
 - ・ 2040年度には約272万人（+約57万人（3.2万人/年））となった。 ※（）内は2022年度（約215万人）比
- 国においては、①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受入環境整備など総合的な介護人材確保対策に取り組む。



厚生労働省 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について（令和6年7月12日）

なぜICTが求められているのか

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現

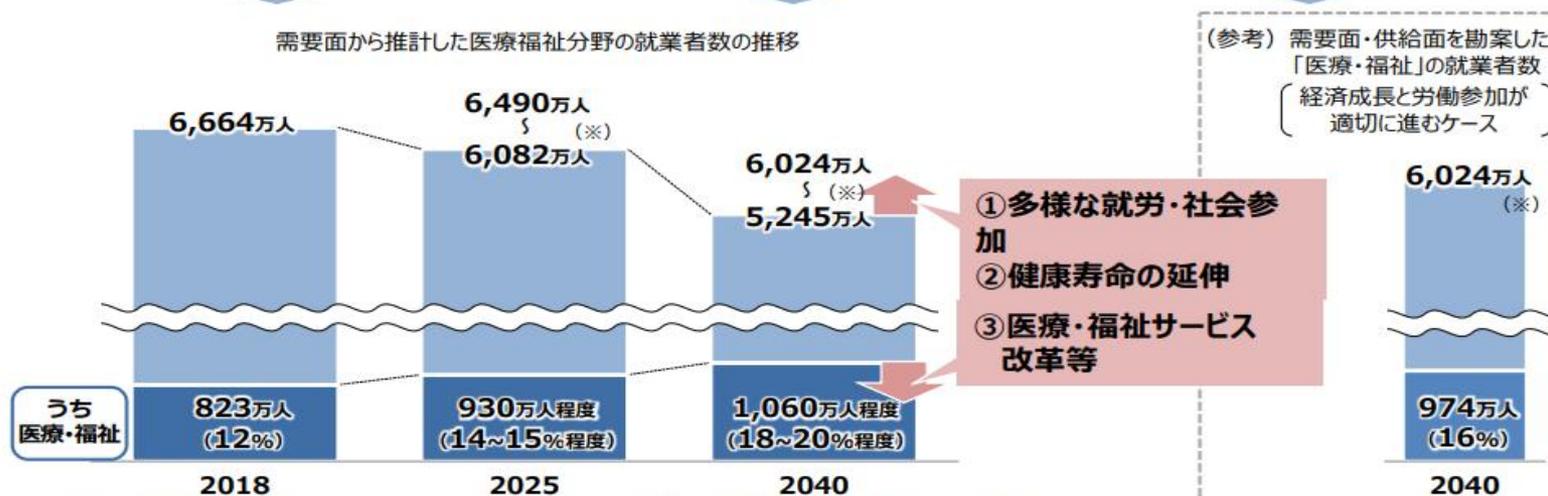
- 2025年を念頭に進めてきた社会保障・税一体改革が、本年10月に一区切りを迎える。
- 2040年を展望すると、高齢者の人口の伸びは落ち着き、現役世代（担い手）が急減する。
→「総就業者数の増加」とともに、「より少ない人手でも回る医療・福祉の現場を実現」することが必要。
- 併せて、給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保に取り組んでいく。

一億総活躍
(高齢者、若者、女性、障害者)

イノベーション
(テクノロジーのフル活用)

社会保障を超えた連携
(住宅、金融、農業等)

需要面から推計した医療福祉分野の就業者数の推移



※総就業者数は雇用政策研究会資料。総就業者数のうち、下の数値は経済成長と労働参加が進まないケース、上の数値は進むケースを記載。

④ 給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

※3月20日未来投資会議資料(抜粋)

1

職員の満足度

3) ロボット・ITの導入効果

ITの導入が進んでいる施設で働いていると、満足度は高くなる。

- 2016年と比べて、ITを導入している施設で働く介護従事者の割合は4.3ポイント増えた。
- IT導入施設で働く介護従事者の満足度は、未導入施設の従事者より、11.4ポイント高い。

■ 勤務先施設におけるIT導入状況

□ 勤務する介護施設 職場の環境（ロボット・IT）（介護職従事者／複数回答）

	2018年全体		2016年全体		前回差
IT導入	(n=1,000)	50.8	(n=1,000)	46.5	+ 4.3

■ 勤務先施設におけるIT導入状況と介護職従事者の満足度

□ 働く施設に対する満足度（介護職従事者／単一回答）

あなたは現在お勤めの介護施設での仕事に、どの程度満足していますか。

※過去に高齢者分野の介護業界で働いていた経験のある方は、最後にお勤めになった介護施設でのことについてお答えください。

	凡例	満足・計							満足・計	
		とても満足している	満足している	ある程度満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	まったく満足していない		
全体	(n=1,000)	4.2%	11.6	33.7		20.6	14.0	6.8	9.1	49.5
情報技術・機器導入状況										
未導入	(n= 492)	3.9	10.0	29.9	21.7	14.8	8.9	10.8		43.7
導入あり	(n= 508)	4.5	13.2	37.4		19.5	13.2	4.7	7.5	55.1

※「満足・計」が全体より 10 10%以上高い 5 5%以上高い 5 5%以上低い

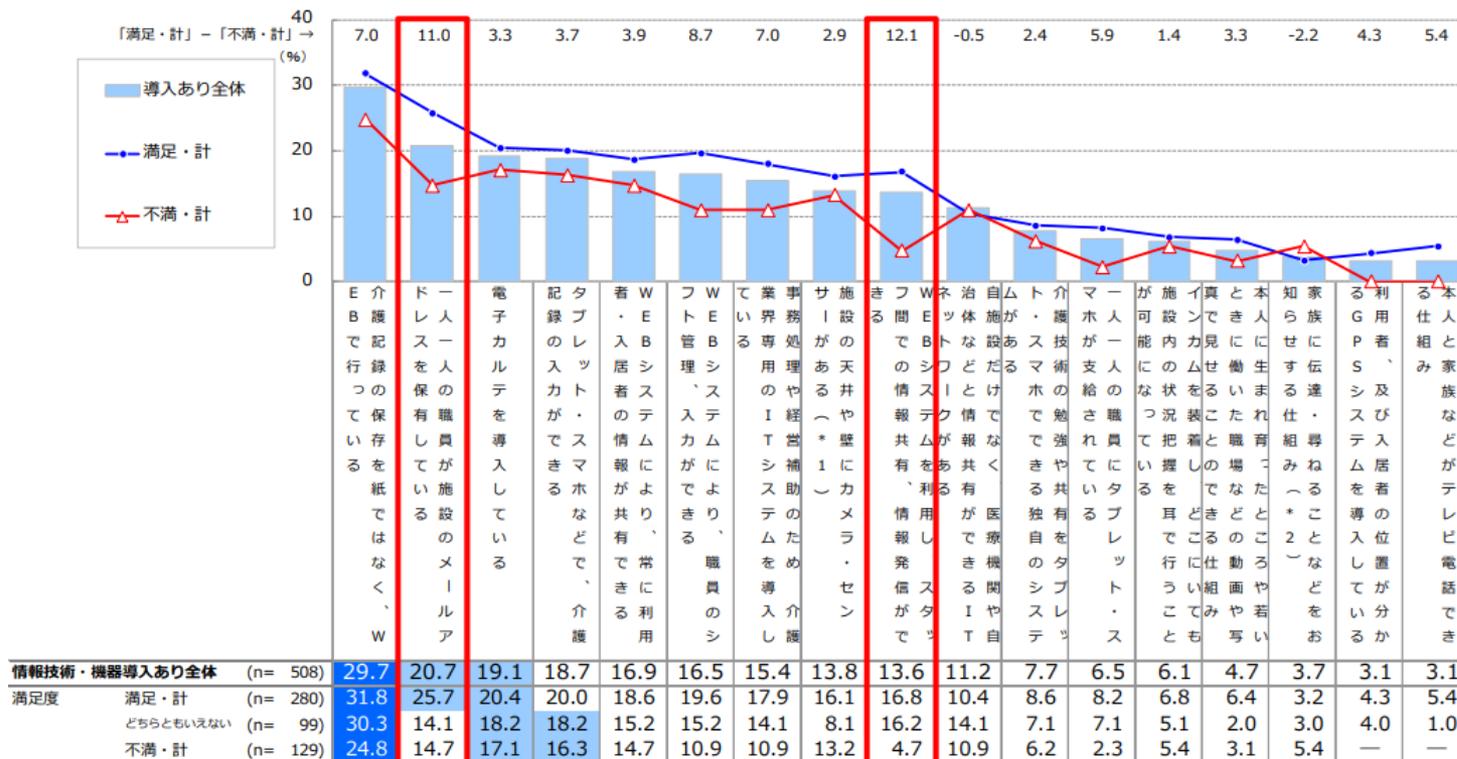
HELPMAN JAPAN「介護サービス業で働く人の満足度調査」（平成30年12月25日）

職員の満足度

□勤務する介護施設 職場の環境（ロボット・IT）：情報技術・機器（勤務先施設で情報技術・機器導入済み／複数回答）

現在お勤めの介護施設では、以下のようなロボットや情報技術・機器は導入されていますか。導入されているものをすべてお選びください。

※過去介護業界で働いていた経験のある方は、最後にお勤めになった介護施設でのことについてお答えください。



※全体の降順にソート ※スコアが 1位 3位以内 ※情報技術・機器の種類は、福祉NPO法人研究会の資料等を参考に作成した。

※実際の選択肢は、(*1)が「必要に応じて利用者・入居者の様子を確認することができるよう、施設の天井や壁にカメラ・センサーがある」、(*2)が「カーナビなどを通じて、送迎の経路や到着時間、利用者の介助の際に注意すべき事、家族に伝達・尋ねることなどをお知らせする仕組み」

HELPMAN JAPAN 「介護サービス業で働く人の満足度調査」（平成30年12月25日）

ICT化の本質と目的

- ・ICT化の本質は業務改善
- ・業務改善の目的は「限られた人材で必要な支援を提供する為」

ICT化の進め方

- ポイントは「仮説検証」→「効果測定」を繰り返す(あきらめない)こと

業務改善の基本的な進め方



ここが
一番重要

繰り返す(あきらめない)

ICT

ICT化の進め方

● ①:理想的な状態をイメージする

『ある業務にかかる時間を短縮し、直接支援に従事する時間を確保することで支援の質・量を引き上げていきたい!』といった、具体的な理想像が無ければ進まない。

理想的な状態を考える際には、組織のトップが理想像を組織全体に明確に示していく事が重要。

● ②:改善プロジェクトチームの立ち上げ

ICT化を進めていく際は、組織内で同じ理想像を共有できるメンバーで構成された改善プロジェクトチームが必要。チームでの課題解決が重要。

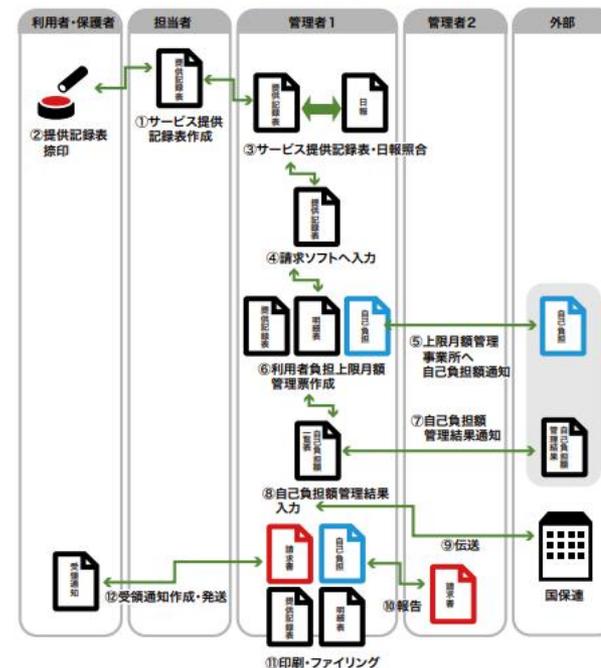
ICT化の進め方

③:現状を見える化

各部門、事業所ごとにヒアリングを実施し、理想の状態を実現するために現状の仕組みでは何が課題となっているのかを明確化(見える化)する。

(例)
各業務のワークフローと
それぞれに係る時間を見える化

請求ワークフロー例



	所要時間(分)		所要時間(分)
作業①	サービス提供毎に作成	作業⑦	120分 (8分×15ヵ)
作業②	サービス提供終了時に毎回捺印	作業⑧	75分 (5分×15ヵ)
作業③	150分 (5分×30ヵ)	作業⑨	5分
作業④	300分 (10分×30ヵ)	作業⑩	15分 報告書作成
作業⑤	120分 (8分×15ヵ)	作業⑪	30分
作業⑥	75分 (5分×15ヵ)	作業⑫	150分 (5分×30ヵ)
		計(①~⑫)	1,040分

ICT化の進め方

● ④:課題の設定

現状を見える化した後、課題を抽出、優先順位をつけ取り組むべき課題を設定。

業務フローを整理し、それぞれの業務に費やしている時間・人数を記載することで優先順位を決定。

● ⑤:解決策

設定した課題に対する解決策を考案。

ICT化は課題解決策の1つ。ICT化することで業務が複雑・乱雑になる可能性もある。

『業務をより効率化していく為には?』という視点でICT化に拘らない。

● ⑥:仮説検証

解決策でICT化となれば、実際に小さくテスト的に取り組み始める。

課題をより小さく把握することで、試験的な取り組みが可能

ICT化の進め方

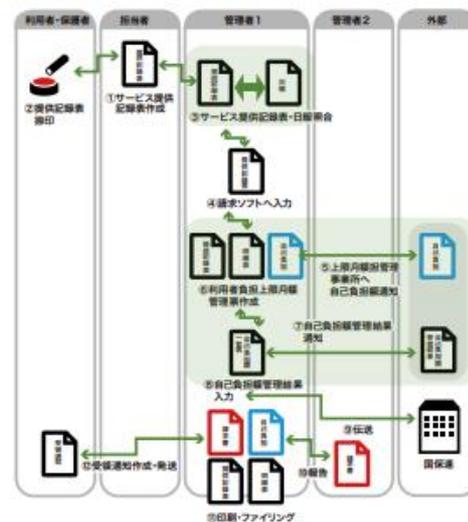
● ⑦:効果測定

試験的にICT化に着手し、どの程度の業務効率化が可能となったかを測定する
(投入時間×人員×人件費)

試験的に実施し、費用対効果を測定出来れば、
大きくICT化に着手する際の
初期投資限度を算出することが可能となる。

請求 | モデルケース

ICT化モデルケース (放デイ:自己負担管理対象15人の場合)



③⑤⑥が自動化

	作業時間(分)		作業時間(分)
作業①	サービス提供時に作成	作業⑦	120分 (8人×15分)
作業②	サービス提供終了時に毎回捺印	作業⑧	75分 (5人×15分)
作業③	150分 (5人×30分)	作業⑨	5分
作業④	300分 (10人×30分)	作業⑩	15分 報告書作成
作業⑤	120分 (8人×15分)	作業⑪	30分
作業⑥	75分 (5人×15分)	作業⑫	150分 (5人×30分)
計(1-12)		1,040分	

⑦⑧が自動化

導入前: 1,040分

人件費 = 26 千円 / 月
= 312 千円 / 年

導入後: 695分 (△ 345分)

= 17 千円 / 月 (△ 9 千円 / 月)
= 209 千円 / 年 (△ 104 千円 / 年)

現場への浸透策

- **ガイドラインに載っていませんが、重要です！**

- **経営層の役割**

- 組織としての取り組みを、従業員・スタッフにきちんと理解してもらう
 - ✓ 目的と将来の未来像
 - ✓ なんのためにICT化するのか
 - ✓ やらされ感をなくし、自分ごとにする
- 教育体制
 - ✓ ICTに関するリテラシー教育
 - ✓ 情報の扱いに関する教育

- **実行(推進)チームの役割**

- 仲間を増やしていく
- 少しずつで良い、結果が見えることが大事

ICT活用のための道具

● なにが必要になってくるのか

- ICT基盤の整備
 - 高速インターネット、無線LAN環境
 - アクセス端末(PCやスマホ)
- クラウド型をおすすめ
 - 災害に強い
 - セキュリティ管理や運用の負担が少ない
- 整備には費用がかかる
 - 補助金や助成金の活用
 - TechSoupへの登録(非営利団体限定)
- 運用が必要
 - 利用アカウントの管理

ICT活用のための道具



・ TechSoup

非営利法人（NPO法人、公益財団法人、公益社団法人、社会福祉法人）、一般社団法人を対象とした、IT基盤・組織基盤強化を支援するためのプログラム

<https://www.techsoupjapan.org/>

・ IT導入補助金 <https://www.it-hojo.jp/>

・ 障害福祉分野におけるICT導入モデル事業 →所属自治体に問い合わせ

2. 事例編

03

情報をまとめよう！

▶ 情報共有：グループウェア

導入事例 特定非営利活動法人 SMSC（茨城県稲敷市）

グループウェアを導入し、全職員のスケジュールを一元化して、スケジュールや申し送りを管理。

業務の質の向上

- セキュリティレベルは高くなり、かつ情報伝達が速くなり、伝え漏れが減った。情報を手軽にアップできるようになり、伝え忘れからくる共有と連携のミスが減った。個々のスケジュールのバッティングも減った。



量的な効率化

- 投稿量が増え（スレッド数 15 件/月→100 件/日へ）、コミュニケーション量が増えた。

課題

- 情報のやりとりを個人の SNS を通じて実施していたが、情報管理の観点から問題と認識していた。
- スケジュールをホワイトボードの予定表を使って管理していた。

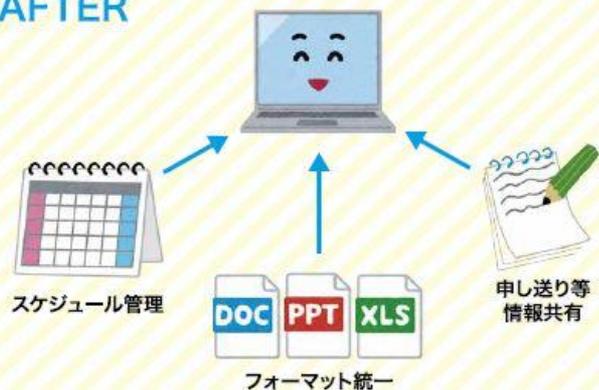
解決の仕方

- ①法人でグループウェアを導入し、スケジュール管理を一元化し、全員の情報を見ることができるようにした。
- ②社内の申請書・日報等のフォーマットを統一し、グループウェア上で管理するようにした。
- ③申し送り等、あらゆる情報共有系は SNS 上で管理するようにした。

BEFORE



AFTER



● グループウェアとは

組織内でスムーズな情報共有やコミュニケーションを行い、効率的に業務を遂行するためのツール

[グループウェアで出来る様になること]

- ・スケジュール共有
- ・施設予約
- ・インフォメーション
- ・文書管理
- ・決裁(ワークフロー)
- ・法人内外とのメッセージのやり取り

➤ 例えば…



<https://gsuite.google.co.jp/intl/ja/>



<https://office.cybozu.co.jp/>

05

テレビ会議をしよう！

▶ 会議：テレビ会議

導入事例 社会福祉法人ゆうゆう（北海道当別町）

拠点が離れているため、情報共有や会議のためにテレビ会議システムを活用。

業務の質の向上

- 理事長の決裁が早く取れるようになり、業務スピードが速くなった。

量的な効率化

- 移動時間が大幅に削減され、支援等に回せる時間が大幅に増えた。

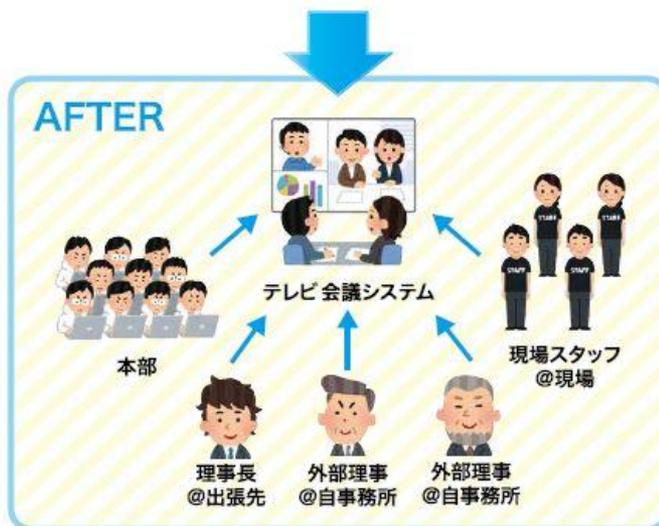
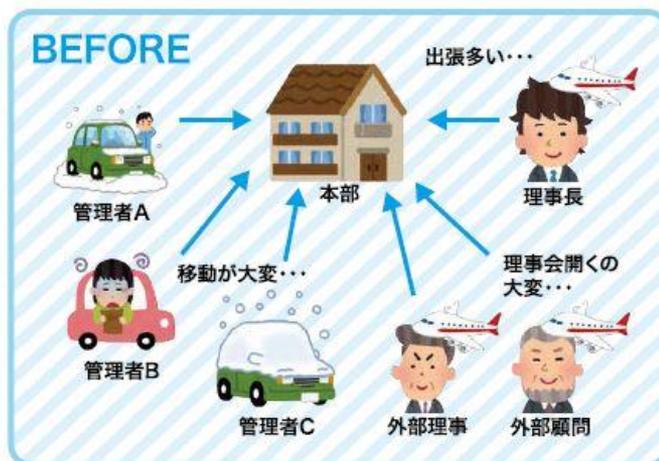


課題

- 拠点が離れており、車での移動だけで30分～1時間かかっていた。
- 雪深いエリアであるため、特に冬場の移動中の事故リスクが相当高く、できるだけ避けたい。
- 理事長の出張が多く、直接会議できず、決裁が遅れることが多かった。
- 遠方の外部理事・顧問がいるため、理事会を開催するにあたり、出張時間や旅費が懸念された。

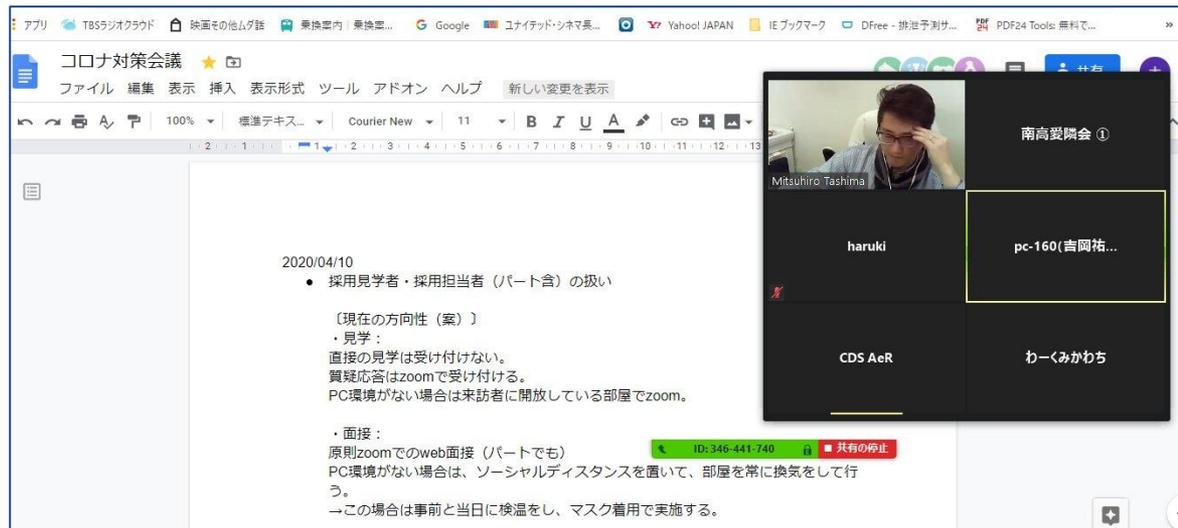
解決の仕方

- ① テレビ会議システムを導入し、各拠点からテレビ会議に参加できるようにした。



● テレビ会議システムとは

パソコンやスマホを使って、いつでも簡単にテレビ会議ができるweb会議ツール



➤ 例えば…



<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>

- ・コロナ会議(3～4月に毎日開催)
- ・計画相談のモニタリング

障害福祉現場の業務効率化のためのICT活用



- 運営基準や報酬算定上必要となる委員会等や、身体的接触を伴わない又は必ずしも対面で提供する必要のない支援について、テレビ電話装置等を用いた対応を可能とする。

	事項	対象サービス	内容
委員会・会議等	感染症・食中毒の予防のための対策検討委員会	全サービス共通	感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	身体拘束等の適正化のための対策検討委員会	訪問系サービス、通所系サービス、入所系サービス	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	虐待防止のための対策検討委員会	全サービス共通	虐待の防止のための対策を検討する委員会について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	個別支援計画作成等に係る担当者等会議	通所系サービス、入所系サービス	利用者に対するサービス提供に当たる担当者等で行われる個別支援計画等の作成に係る会議について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	サービス担当者会議事例検討会等	計画相談支援、障害児相談支援	サービス等利用計画の作成のために福祉サービスの担当者で行われる会議や基幹相談支援センター等が実施する事例検討会等について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	特定事業所加算	訪問系サービス	利用者に関する情報若しくはサービスの提供に当たっての留意事項の伝達又は事業所における技術指導を目的とした会議について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	リハビリテーション加算	生活介護	リハビリテーション実施計画の作成や支援終了時に医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、その他の職種の者で行われるリハビリテーションカンファレンスについて、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	日中活動支援加算(新設)	短期入所	日中活動実施計画を作成するに当たって、保育士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士その他の職種の者が共同する場面について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	経口移行加算	施設入所支援	経口移行計画を作成するに当たって、医師の指示に基づき、医師、管理栄養士、看護師その他の職種の者が共同する場面について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	経口維持加算	施設入所支援	経口維持計画を作成するに当たって、医師又は歯科医師の指示に基づき、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師その他の職種の者が共同して、入所者の栄養管理をするための会議等について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
相談等	支援計画会議実施加算(新設)	就労移行支援	就労移行支援計画等の作成等に当たって、ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター等障害者の就労支援に従事する者により構成される会議について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	定着支援連携促進加算(新設)	就労定着支援	地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、医療機関等との連携を図るため、関係機関等を交えた会議について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	居住支援連携体制加算(新設)	自立生活援助、地域移行支援、地域定着支援	精神障害者等の居住先の確保及び居住支援を充実する観点から、居住支援協議会や居住支援法人との情報連携・共有を図る場について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	関係機関連携加算	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス	障害児が通う保育所その他関係機関との連携を図るため、あらかじめ通所給付決定保護者の同意を得て、当該障害児に係る児童発達支援計画に関する会議について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。
	雇用に伴う日常生活上の相談等	就労定着支援	利用者の職場への定着及び就労の継続を図るため、雇用に伴い生じる日常生活又は社会生活を営む上での各般の問題に関する利用者に対する相談、指導等の支援について、テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。

02

利用者情報を共有しよう！

導入事例 社会福祉法人南高愛隣会（長崎県諫早市）

利用者情報共有の介護記録システムを導入。
全職員にアカウントを配布し、
全員が利用者情報を共有できるように。

業務の質の向上

- 伝達漏れによるトラブルがなくなった。
- その日の状態を関係者全員が把握でき、状態に合わせた支援が可能に。
- 入力写真・動画でも可能になり、伝えられる情報量が増えた。
- 役職者が良い支援なのかをリアルタイムで評価でき、現場マネジメントがやりやすくなった。

ムで評価でき、現場マネジメントがやりやすくなった。

量的な効率化

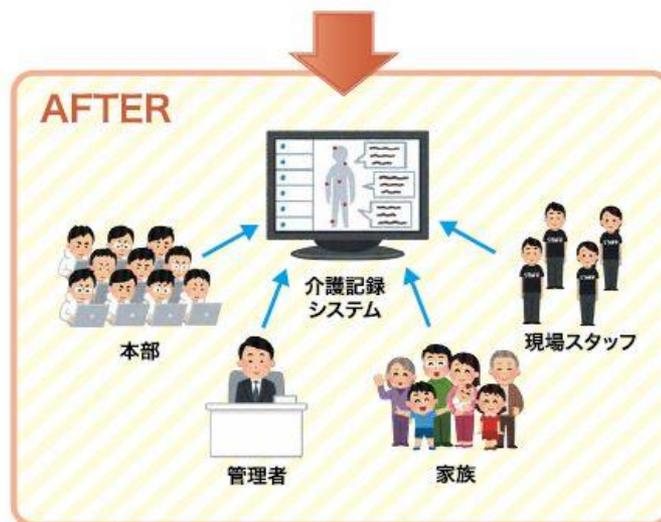
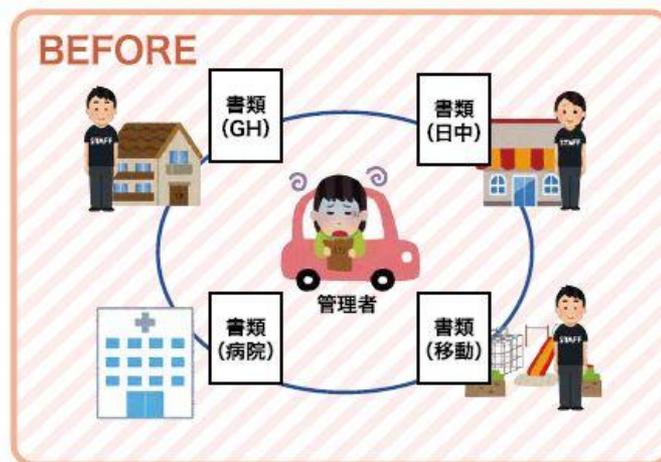
- 書類の記入時間が1/3に縮小。記録にあてる時間が業務時間換算で30分ほど削減された。

課題

- 住まいと日中活動事業所の情報を紙とFAXで共有していた。
- 一度に共有ができないので、伝達漏れが起こっていた。
- 同じ内容を何度も転記しなければならず記録の時間がかかっていた。
- 役職者も現場に行って紙の支援記録を見ないと様子がわからなかった。
- 過去の出来事について検索ができなかった。

解決の仕方

- ①介護記録システムを導入し、全職員にアカウントを配布した。
- ②記録・情報確認用にスマートフォンも増やした。



02

情報共有力を強化しよう！

導入事例 社会福祉法人北摂杉の子会（大阪府高槻市）

就労移行の定期面談・ケース記録・申し送りを一元管理し、情報共有力を強化。

業務の質の向上

- 記録を日々確認しあえる様になり、一度に全階層の職員が情報閲覧できるようになった。
- 写真や動画で情報共有できるようになったので、現場での様子がより深く理解できるようになった。



量的な効率化

- 朝礼・終礼の時間が短縮された。

課題

- 情報共有に時間がかかり、定期面談の記録を手書きで記入し、上長が順番に確認していた。
- その後、ケースファイルで管理するが、上長の所で滞留したり、検索性に乏しいところがあった。
- ケース記録については、2週間分記載してファイリングしていたが、見る機会が少なく、情報共有できていなかった。
- 朝礼・終礼に時間がかかり、共有内容によっては1時間以上かかることもあった。
- 実習等、外部で支援しているときの様子が終礼で共有できない等の情報の洩れがあった。

解決の仕方

- ①定期面談・ケース記録・申し送りを一元管理できるシステムを導入した。
- ②写真や動画で情報共有できるシステムを導入した。

BEFORE



長い朝礼・終礼…



上長の所で滞留…



実習の様子がわからない…

AFTER

- ・定期面談
- ・ケース記録
- ・申し送り



介護記録システム



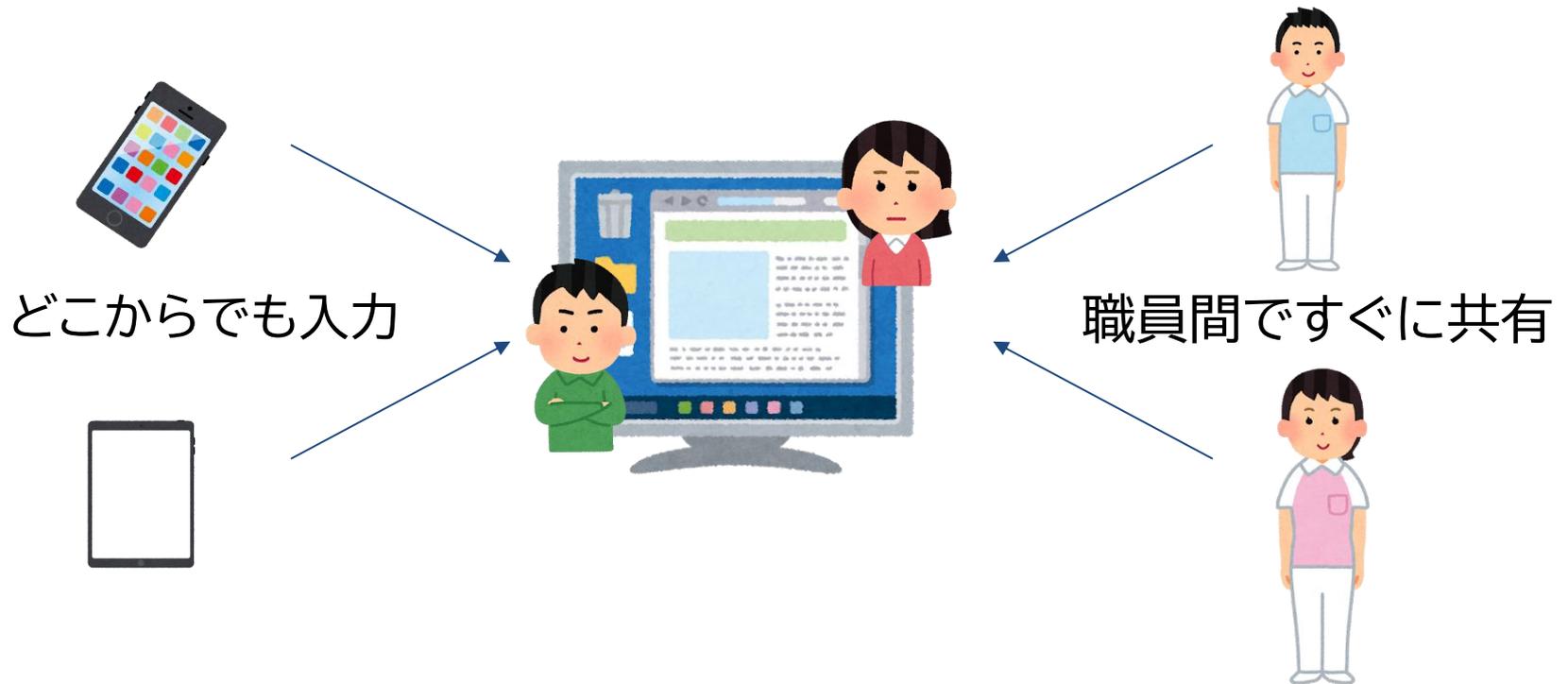
全階層の職員が閲覧可能に！

音声・写真・動画



記録

- 電子記録システム(ネット上で支援記録を登録し、関係者で共有するシステム)



➤ 例えば…

carecollabo™

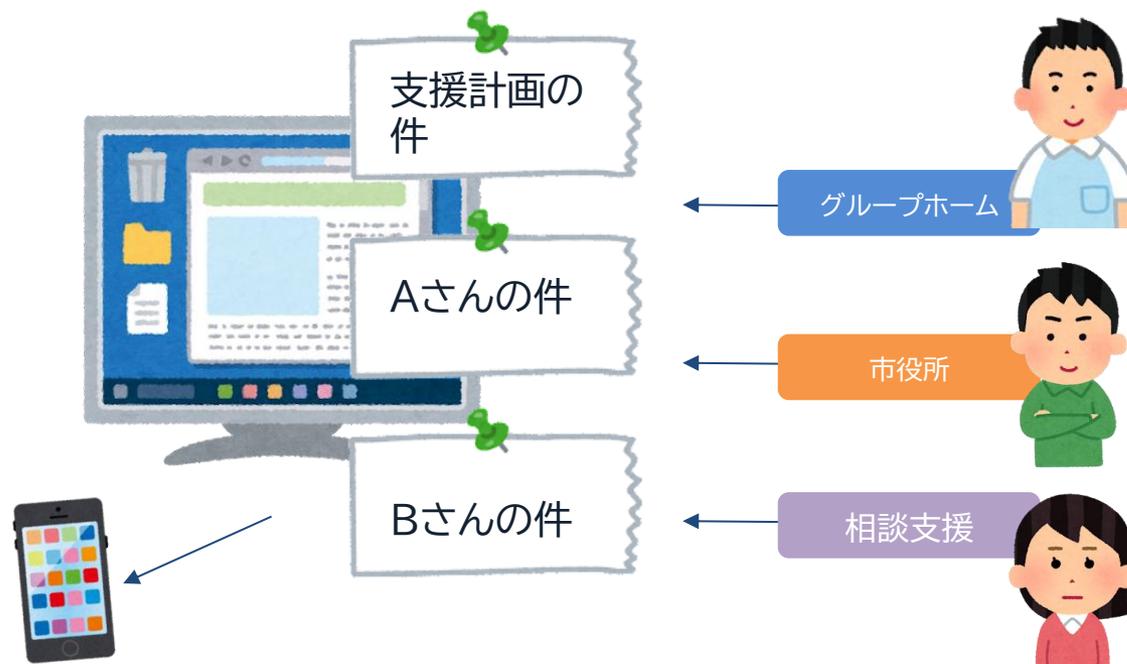
<https://page.carecollabo.jp/>

外部との連携

● 外部との情報共有・連携

AFTER

- 話題に応じてスレッドを作れる
- 届いたら携帯へ通知も



➤ 例えば…



<https://go.chatwork.com/ja/?click=header-navi>



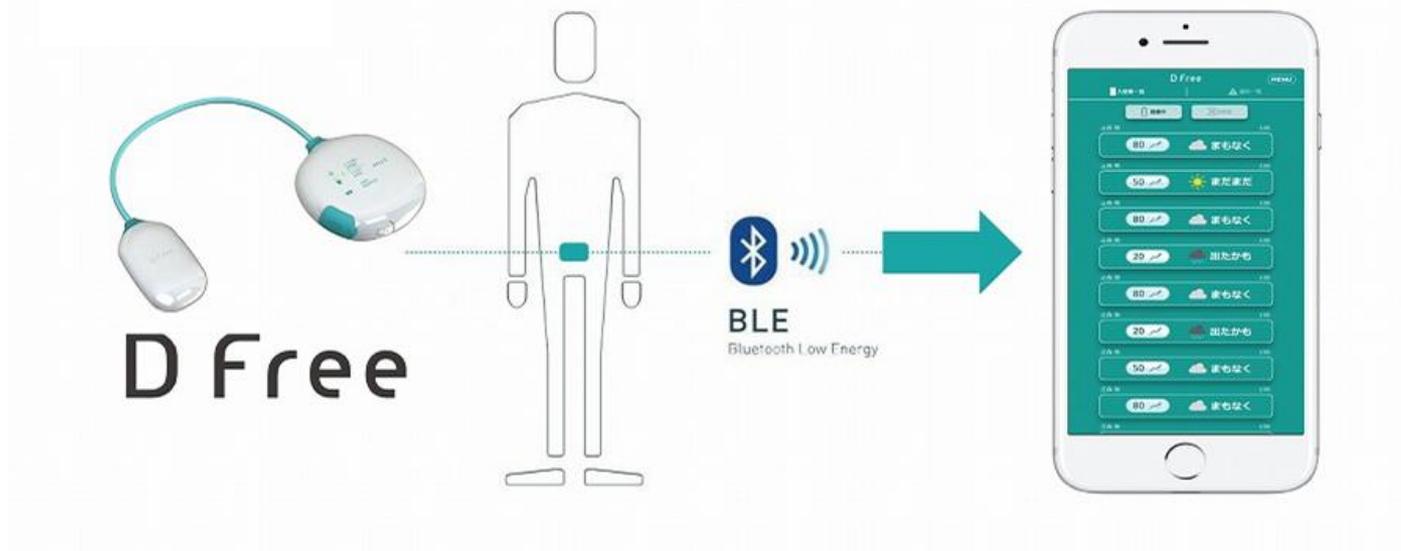
Microsoft Teams

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software>

その他(支援面)

- D-free(排泄予測デバイス)

超音波で膀胱の変化を捉え、排泄までのタイミングをお知らせする。



➤ 例えば… **D Free** <https://dfree.biz/>

その他(支援面)

● 様々な療育プログラム

SSTプログラムなどをタブレットを活用して実施。

➤ 例えば…



[Scratch - Imagine, Program, Share
\(mit.edu\)](https://scratch.mit.edu)

プログラミング言語学習が無料でできるアプリ。

実際に導入したことにより、

- ・活動に積極的に取り組むようになった。
- ・言語能力が身に着いた。
- ・手順を考えるなど、論理的思考につながるやりとりが見られるようになった。

などの報告がある。

3. ICT導入補助金を活用した実績報告書分析結果

<仕様>

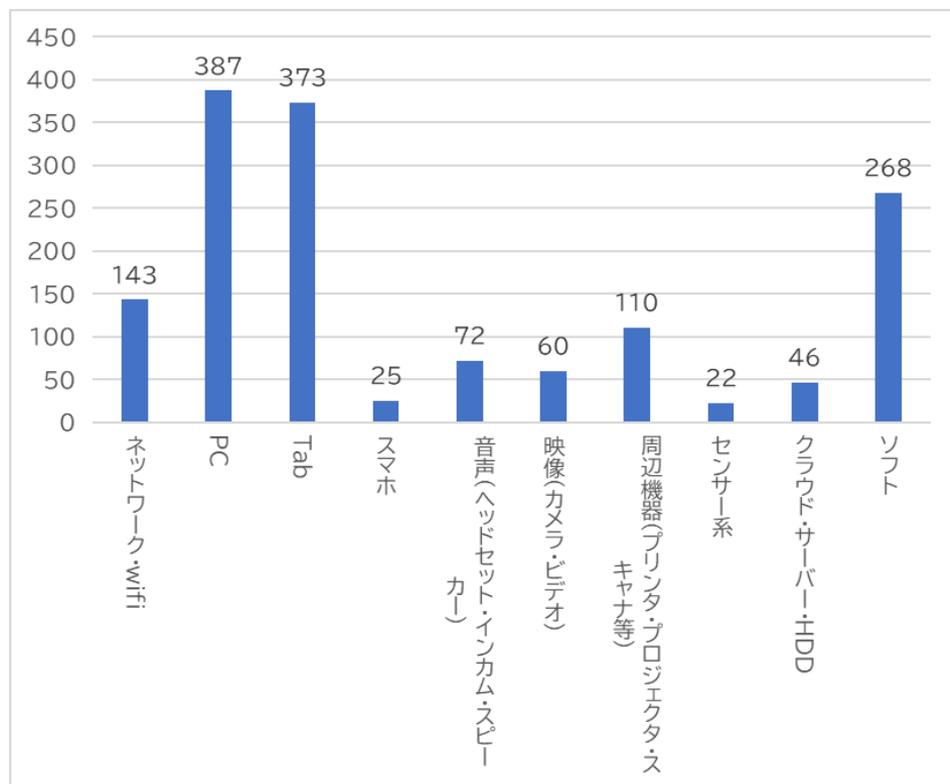
下記補助金の完了報告資料、全899事業所のデータを元に分析した。

- R2実施分:33自治体、573事業所
- R2繰越分:31自治体、326事業所

導入設備

- 導入設備が多かったものは、上位より、PC(387件)、Tab(373件)、ソフト(268件)であった。
- 特徴的であったのは、周辺機器:モバイルプリンタが多くあった。
(訪問時に記録→現地で印刷・捺印するため)

【導入設備】



導入目的

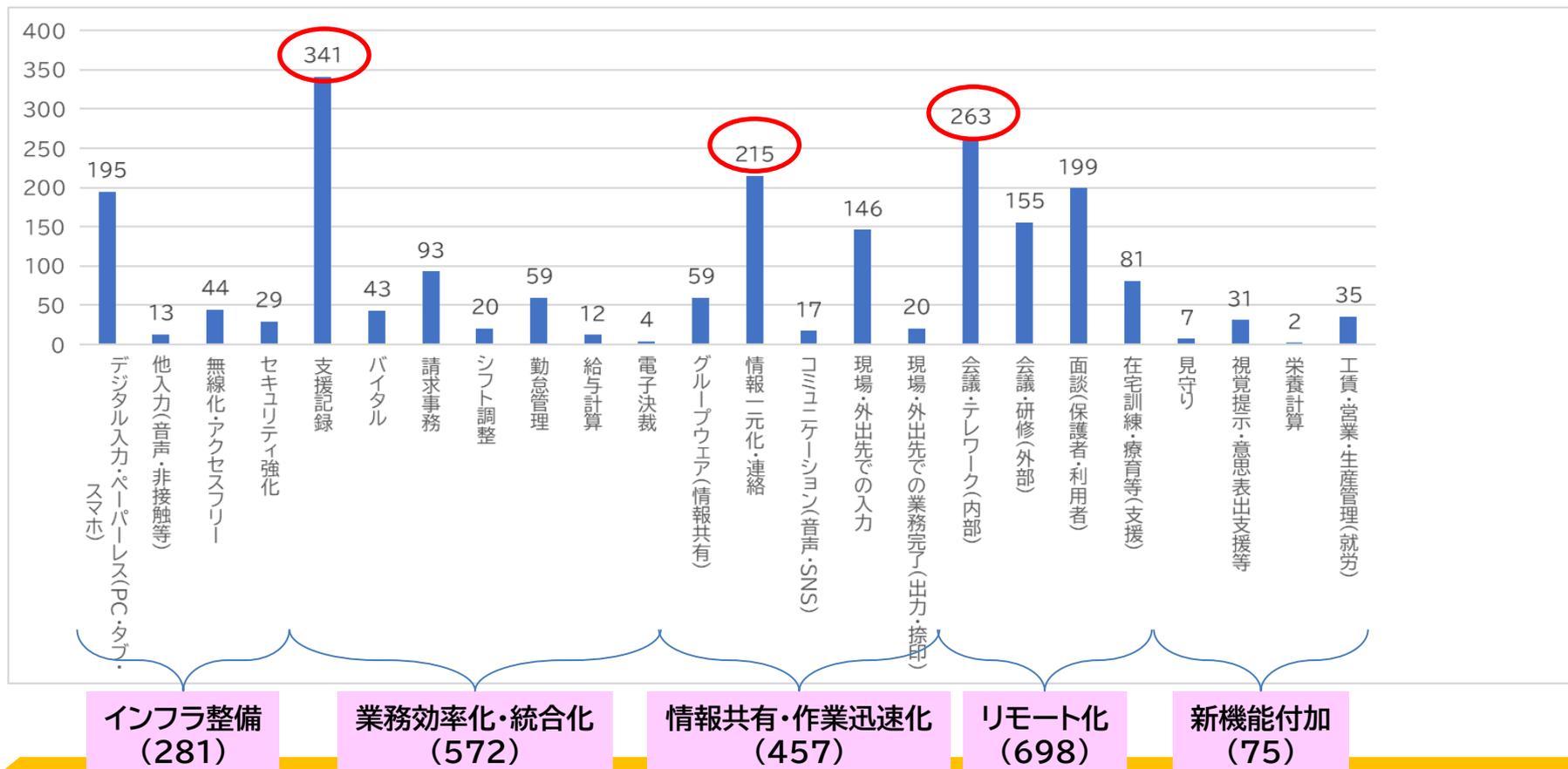
【導入目的:中・小項目と分類基準】

中項目	小項目	分類基準
インフラ整備	デジタル入力・ペーパーレス(PC・タブ・スマホ)	PC・タブ・スマホを活用してデジタル入力・ペーパーレス化を図る
	他入力(音声・非接触等)	デジタル入力以外の入力方法
	無線化・アクセスフリー	wifi等を導入し、無線化・アクセスフリー化を図る
	セキュリティ強化	VPN等を導入し、セキュリティ強化を図る
業務効率化・統合化	支援記録	支援記録
	バイタル	バイタルチェック
	請求事務	請求事務
	シフト調整	職員・利用者等のシフト調整
	勤怠管理	職員・利用者等の勤怠管理
	給与計算	給与計算
	電子決裁	電子決済(電子捺印、ワークフロー等)
情報共有・作業迅速化	グループウェア(情報共有)	グループウェアを用いた情報共有・連絡等
	情報一元化・連絡	グループウェアの記載がない情報共有・連絡等
	コミュニケーション(音声・SNS)	コミュニケーションの円滑化(音声・SNS利用)
	現場・外出先での入力	事務所以外(現場・外出先)での入力作業
	現場・外出先での業務完了(出力・捺印)	事務所以外(現場・外出先)での業務完了(出力・捺印まで含む)
リモート化	会議・テレワーク(内部)	オンライン会議・テレワークへの対応(法人内部)
	会議・研修(外部)	オンライン会議・研修への対応(法人外部)
	面談(保護者・利用者)	オンライン面談(保護者・利用者)
	在宅訓練・療育等(支援)	オンライン訓練(日中の在宅、療育等)
新機能付加	見守り	見守り機能
	視覚提示・意思表示支援等	視覚提示や意思表示支援への活用
	栄養計算	栄養計算
	工賃・営業・生産管理(就労)	工賃計算、営業活動、生産管理といった就労に関するもの

導入目的

- 中項目上位3位: リモート化(698件)、業務効率化・統合化(572件)、情報共有・作業迅速化(457件)
- 小項目上位3位: 支援記録(341件)、会議・テレワーク(内部)(263件)、情報一元化・連絡(215件)

【導入目的(MA)】 ※n=899



クロス分析:導入設備×導入目的

- 件数の多い組み合わせは、PC・Tab・ソフトの導入数に誘因されている傾向が強い(横軸)
- 大多数(150前後):支援記録×PC・Tab・ソフト、会議・テレワーク(内部)×PC・Tab
- 多数(100前後):デジタル入力×PC・Tab・ソフト、情報一元化×PC・Tab・ソフト、現場外出先入力×PC・ソフト、会議研修(外部)×PC・Tab、面談×PC・Tab
- やや多(50前後):多数だが、ユニークな組み合わせは表の薄ピンクの組み合わせに多い。
例)現場・外出先での入力×周辺機器(プリンタ)(33件)
例)現場・外出先での業務完了(出力・捺印)×周辺機器(プリンタ)(16件)

【導入設備×導入目的】 ※n=899

インフラ整備	業務効率化・統合化				情報共有・作業迅速化							リモート化					新機能付加							
	デジタル入力・バーレス(PC・タブ・スマホ)	他入力(音声・非接触等)	無線化・アクセシビリティ	セキュリティ強化	支援記録	バイタル	請求事務	シフト調整	勤怠管理	給与計算	電子決裁	グループウェア(情報共有)	情報一元化・連絡	コミュニケーション(音声・SNS)	現場・外出先での入力	現場・外出先での業務完了(出力・捺印)	会議・テレワーク(内部)	会議・研修(外部)	面談(保護者・利用者)	在宅訓練・療育等(支援)	見守り	視覚提示・意思表出支援等	栄養計算	工賃・営業・生産管理(就労)
ネットワーク・wifi	27	3	35	13	66	5	17	3	5	0	0	16	38	2	29	0	61	34	45	10	4	8	1	6
PC	103	1	17	14	153	10	42	6	21	6	2	26	92	8	85	13	154	105	104	44	4	19	1	28
Tab	87	5	18	10	155	35	31	9	23	2	3	30	116	11	66	9	137	84	113	46	5	16	1	12
スマホ	12	1	2	0	13	0	2	2	1	0	0	1	10	4	6	0	8	5	4	4	0	1	1	1
音声(ヘッドセット・インカム・スピーカー)	15	6	7	2	23	3	3	4	3	0	0	3	24	11	19	3	43	30	23	10	2	3	0	5
映像(カメラ・ビデオ)	5	0	7	4	17	2	6	2	2	0	1	3	13	0	8	2	39	22	22	6	4	4	0	6
周辺機器(プリンタ・プロジェクタ・スキャナ等)	31	1	6	7	45	3	7	2	5	1	1	11	31	0	33	16	48	34	24	10	1	8	1	7
センサー系	2	5	3	2	7	5	0	0	8	0	0	1	1	0	1	2	3	1	2	1	0	1	0	0
クラウド・サーバー・HDD	9	1	0	8	24	0	16	3	6	1	2	5	28	0	8	1	19	13	3	3	0	0	0	2
ソフト	89	3	8	15	149	15	58	10	23	9	0	20	98	4	54	3	57	26	37	19	1	5	1	8

ソフトの種類

- 記録・請求連動ソフトが、130件と、ほぼ大半を占める。
- その他、基本的な底上げ(セキュリティ・ソフトウェア・ウィルス対策)を除くと、勤怠管理、バイタル入力、グループウェア、シフト調整、音声入力、相談支援 等が多い。

【ソフトの種類】

機能	件数	代表例
記録・請求	130	ほのぼの
セキュリティ	21	beat/active
ソフトウェア	19	office
勤怠管理	19	Xronos
ウィルス対策	16	ウィルスバスター
バイタル入力	10	ケアパレット
web会議	7	zoom
グループウェア	7	サイボウズoffice
シフト調整	4	ケアシフト
音声入力	3	VOICE REP PRO 3
給与計算	3	JDL給与ソフト
相談支援	3	「介五郎」総合支援版
リモート管理	3	RemoteView
営業支援	2	Taskware (タスクウェア)
アセスメント	1	WAVESデジタル検査&トレーニング
栄養計算	1	Ulabel 食品・栄養成分表示ソフト
学習支援	1	多層指導モデルMIM
視覚支援	1	インフォメーションシステムズ
情報	1	LITALICO発達ナビ
電子カルテ	1	wiseman
電子認証	1	電子申請(e-gov用)変換ソフト
独自開発	1	支援記録、作業アセスメント作成システム開発費
ネット予約	1	おさえるネット
呼び出し管理	1	NYCマルチビューワ

【(ご参考)ICTガイドラインでの計測モデル】

<基礎編>

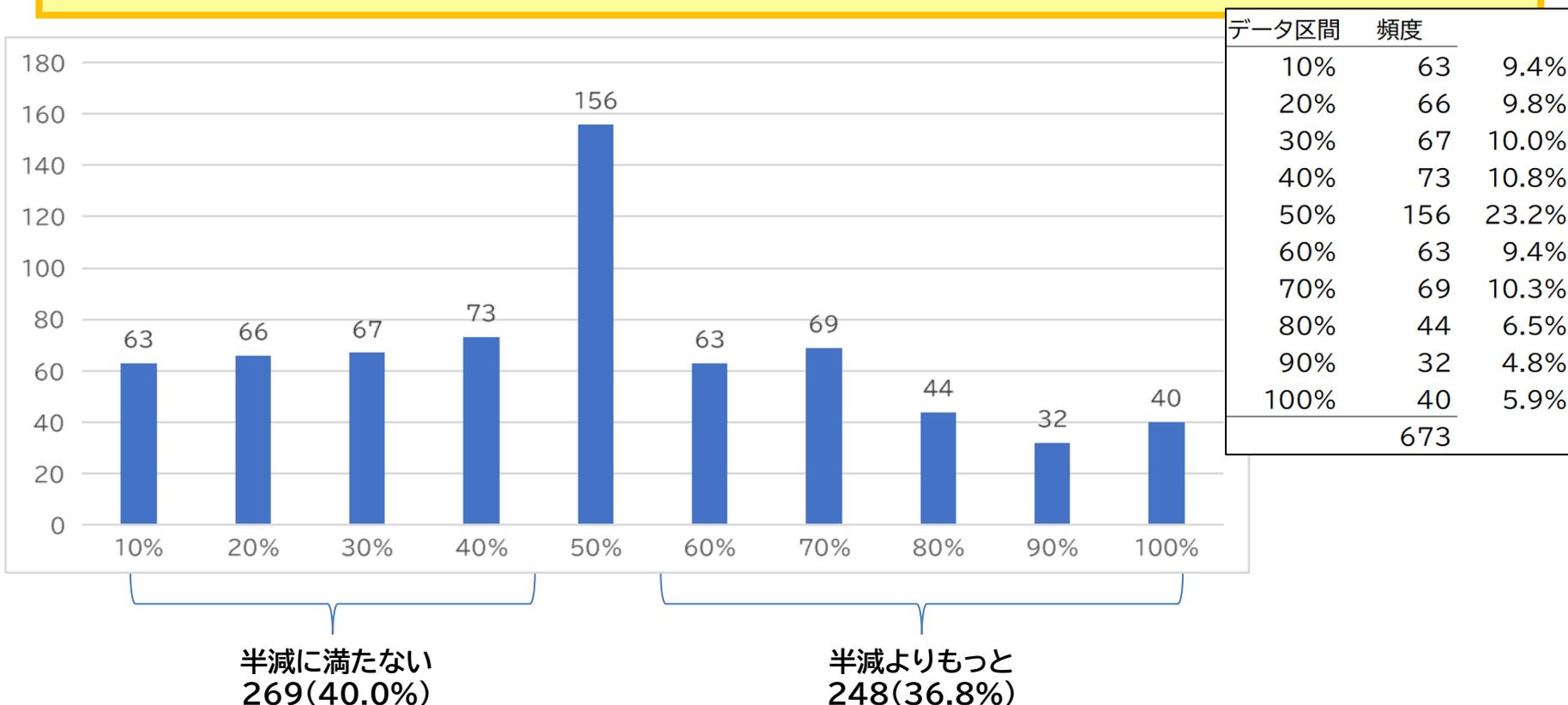
- 記録: 音声・スマホ(インカムによる業務改善)
- 勤怠: ICカード
- 情報共有: グループウェア
- 請求: システム
- 会議: テレビ会議・法人連携(相談)
- ICT環境全体

<実践編>

- 利用者情報管理
- 記録(手書き・現地)
- 請求
- シフト調整
- 勤怠管理

業務時間削減率

- 約半減(~50%)が156件(23.2%)となっている。
- まだ効果測定しきれていないケースも多く、また記載精度がバラバラであるため、あくまで参考数値と考える。



ICT導入実績報告書 結果まとめ

<結果まとめ>

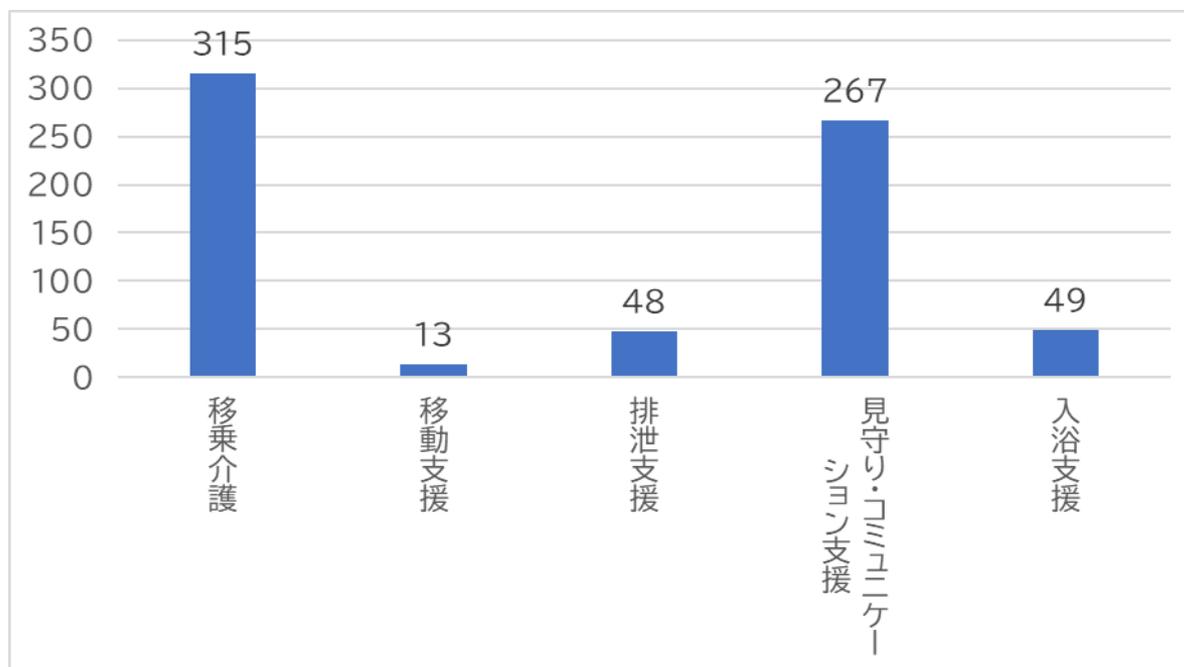
- 導入設備で多かったものは、上位より、PC(387件)、Tab(373件)、ソフト(268件)であった。
→他と比して上位3位が圧倒的に多かった。
- 導入目的は、中項目上位3位:リモート化(698件)、業務効率化・統合化(572件)、情報共有・作業迅速化(457件)であった。
- また、小項目上位3位:支援記録(341件)、会議・テレワーク(内部)(263件)、情報一元化・連絡(215件)であった。
- 導入設備×導入目的のクロス分析では、PC・Tab・ソフトの導入数に誘因されている傾向が強い。
 - 大多数(150前後):支援記録×PC・Tab・ソフト、会議・テレワーク(内部)×PC・Tab
 - 多数(100前後):デジタル入力×PC・Tab・ソフト、情報一元化×PC・Tab・ソフト、現場外出先入力×PC・ソフト、会議研修(外部)×PC・Tab、面談×PC・Tab
- やや多(50前後):多数だが、ユニークな取り組みは表の薄ピンクの組み合わせに多い。
例)現場・外出先での入力×周辺機器(プリンタ)(33件)
例)現場・外出先での業務完了(出力・捺印)×周辺機器(プリンタ)(16件)
- ソフトの種類も記録・請求連動ソフトが、130件と、ほぼ大半を占める。
- その他、基本的な底上げ(セキュリティ・ソフトウェア・ウィルス対策)を除くと、勤怠管理、バイタル入力、グループウェア、シフト調整、音声入力、相談支援 等が多い。

4. ロボット導入実績報告書の分析結果

導入設備(MA)

- 導入設備上位2位は、移乗介護(315件)、見守り・コミュニケーション(267件)が殆ど。

【導入設備】



導入設備詳細

● 移乗介護(315)

【導入設備】

【移乗】

製品名	件数
イノフィス マッスルスーツ Every	152
移乗サポートロボット Hug	41
移動式リフト EL-580	17
床走行式電動介護リフト KQ-787	8
パワーアシストスーツ J-PAS fleairy	6

【移動】

製品名	件数
ロボットアシストウォーカー	8
マッスルスーツEvery	4
いすら移動式リフトEL-580	2

【排泄】

製品名	件数
家具調トイレセレクトR自動ラップ	19
ラップポン・エール2	14
いまイルモ	3
排泄予測デバイスDFree(ディフリー)	2

Every



Hug



EL-580



アシストウォーカー



※マッスルスーツEvery→移乗の間違い
 ※移動式リフトEL-580→移乗の間違い

トイレセレクトR



導入設備詳細

見守り・コミュニケーション(267)

【導入設備】

【見守り】

製品名	件数
眠りSCAN	65
見守り介護ロボットaams	38
パラマウントベッド離床センサー付きベッド エスパシア	9
シルエット見守りセンサ	9
見守りケアシステム内蔵低床サイドアップ3モーターベッド	9
ベッドコールC・スマート(赤外線センサー増設)	6

【入浴】

製品名	件数
バスリフト EWB100SR	7
マッスルスーツEveryソフトフィット	6
介護リフトつるべ	6

眠りSCAN



aams



バスリフトEWB100SR



3. まとめにかえて

まとめにかえて

● うまくすすめる上で大事なこと

- 一発で成功したり、うまくいったりしない
 - 試行錯誤
- 小さな成功体験の積み重ね
 - 自信とモチベーションにつながる
 - やればできる
- 小口化して繰り返すこと
 - 正解はない、それぞれ
 - 小口化することで失敗しても小さい、評価しやすい
- 伴走者を探す
 - 組織外部からのサポートを受けて、活動を支援してもらう
 - 宿題ドリブン

ICT化とは？

- 今日伝えたい事

ICTは道具

IT機器を導入したから全て解決ではない

本質は**業務改善**